

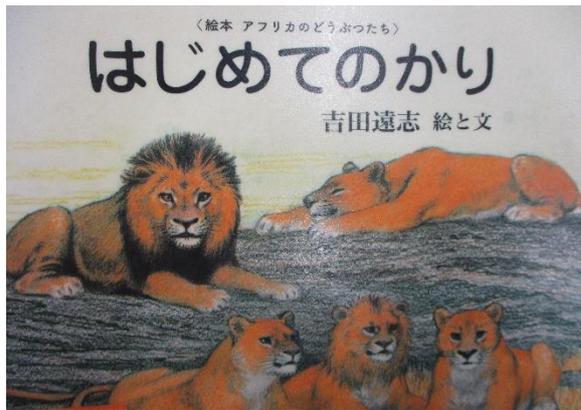
自然、生命、平和 私たちは見つめられている 吉田遠志展

府中市美術館 24.07.20～09.06

本展は、府中市制施行70周年記念として「吉田遠志（とおし）」（1911～95）初の回顧展開催である。画伯は、父親「博」から油彩画を学び、母「ふじ」は画家、弟「穂高」は版画家と一家は吉田ファミリーで、「遠志」は全米を巡って木版画を普及してきた。さらに自ら木版画の技法を習得して、素材を広く海外に求めるようになり、海外にも渡るなど世界各地で**版画家**として活躍した。

1970年代には、アフリカへ渡り野生動物などを題材した作品を多数作成し、「動物絵本シリーズ」で絵本につぼん賞等多くの賞を受賞し、作品はニューヨーク近代美術館や「ボストン美術館」など世界の美術館に所蔵されている。

画伯の動物観察眼は自然の側におかれ、動物がわれわれ人間を凝視するかのようであるといわれていて、国内では幼児向け書籍『動物絵本シリーズ「アフリカ」』がシリーズで数多く出版されている。

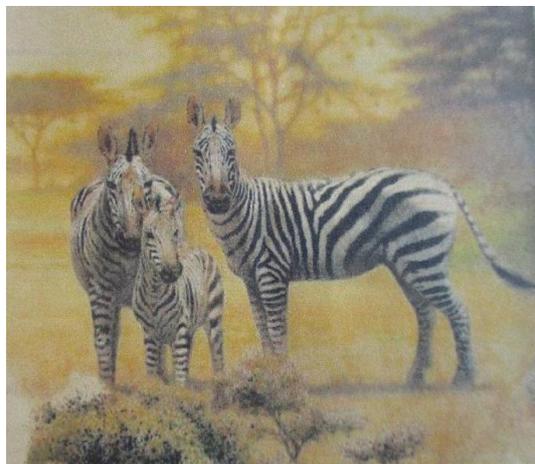


受賞歴《はじめてのかり》：ポローニア国際児童図書展エルバ特別賞。

横長画面に色鉛筆で描かれた絵は迫力満点で、表紙にライオンの家族が描かれた児童向けの書籍である。

アフリカの動物たちの生活は、父親ライオンは、自分の縄張りを見張っていて、横には母親ライオンは、気持ち良さそうに昼寝をしている。

退屈な3匹の可愛い子供ライオンは、遊び好きで初狩りに出かけることにしたが、狩りはとっても難しくて失敗ばかりしています。



吉田遠志 《シマウマ》 1978年

他に《まいご》絵本につぼん賞
サンケイ児童出版文化賞、
国際オーナーリスト賞。

《アフリカの動物絵本シリーズ》
フランス翻訳出版賞など多数の児童書
がある。